

第5章 健全な生態系の保全、人と自然とのふれあいの確保

1 生態系の保全（目標の項目⑩）

目標：さまざまな生物とともに生きられるよう、貴重種をはじめ市内に生息・生育する野生動植物の保全に努めます。

◆目標達成するための指標

野生動植物の生態調査・研究の推進 生態系の保全体制の整備

野生生物が急速に地球上から姿を消しはじめています。その理由は、都市開発や森林開発で棲みかが奪われたり、生活・工場排水で生息環境が汚染されたりとさまざまな理由が考えられますが、どの理由にも共通するのは人間の活動が彼らの生命を脅かしていることです。生態系は植物、動物、微生物及びそれらを取りまく土壌、水、空気などの微妙なバランスから成り立っており、このバランスが崩れると生物の種類数や個体数にも影響がでてきます。人もこの生態系の中に組み込まれており、生態系の保持は重要な課題となっています。

鎌倉市では、自然環境調査を行い市民団体等と協働して生態系の保全体制の整備に努めています。

（１） 緑地の保全のための市内に生息・生育する野生動植物に関する調査・研究、情報の収集

●鎌倉市自然環境調査

＜みどり課＞

平成12年度から14年度にかけて、市内22箇所の緑地保全推進地区及び指定候補地を対象に、その実態を把握するための自然環境調査を実施しました。

この調査の結果は、平成15年3月に報告書にまとめられ、その概要は表5-1（22地区の位置図は図5-1）のとおりで、概要版を作成し、市内の小中学校に配布するとともにホームページで公開しています。

また、平成19年度末現在で、22箇所の緑地のうち10箇所の緑地が特別緑地保全地区等の法制度の適用を受けて保全されています。

表 5-1 鎌倉市自然環境調査結果概要

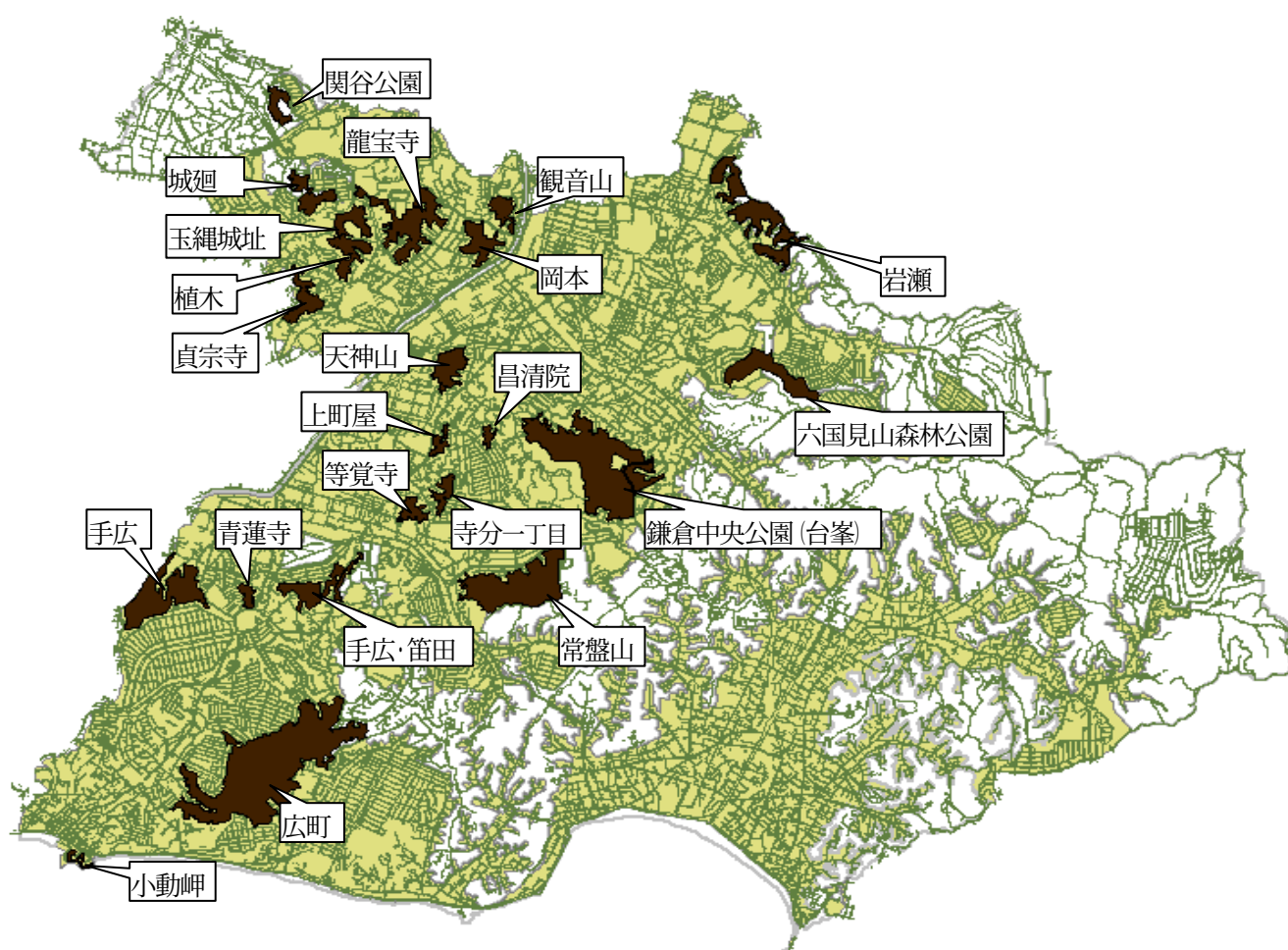
地区名 面積	調査確認数		特記事項
	植物	動物	
(仮称) 関谷公園 面積約2.90ha	69科138種	哺乳類：モグラ、タヌキ他3科3種 鳥類：17科25種 爬虫類：カナヘビ1科1種 両生類：ニホンヒキガエル1科1種 昆虫類：79科201種 底生動物：13科16種	(仮称) 関谷公園は、湧水の水質は良く、周辺自然環境も豊かです。一部に水を溜めるなど、湿地の再活用を検討することで、動物生息空間としての価値が、さらに高まる可能性があります。
城廻地区 面積約4.5ha	66科166種	哺乳類：モグラ他3科3種 鳥類：17科24種 爬虫類：ヒバカリ1科1種 両生類：ニホンヒキガエル、アマガエル、 ニホンアカガエル3科3種 昆虫類：77科152種 底生動物：12科14種	城廻地区の水質は悪化の傾向にあります。周辺が住宅地に囲まれており、生活廃水等が流入していると推察されます。しかし、池周辺では、カワセミの繁殖の可能性がある他、コガモ、アオサギが飛来するなど、人があまり訪れない池に水鳥が集まっているようであり、適切な管理をしながら、維持していくことが望まれます。
玉縄城址地区 面積約3.56ha	55科126種	哺乳類：モグラ他2科2種 鳥類：18科22種 爬虫類：アオダイショウ1科1種 昆虫類：61科121種	玉縄城址地区、(仮称) 植木地区は、周辺の開発により、林縁部が増大し、林床にアズマネザサが密生する場所が多くあります。玉縄城址地区、(仮称) 植木地区は単独緑地としてではなく、龍宝寺などの周辺緑地と一体として扱い、保全していくことが重要です。なお、市民からの情報では、植木周辺でフクロウが数年前に巣をつくっていたということです。
(仮称) 植木地区 面積約4.60ha	46科86種	哺乳類：モグラ他2科2種 鳥類：15科20種 昆虫類：55科114種	
(仮称) 龍宝寺地区 面積約13.31ha	62科129種	哺乳類：ヒミズ、モグラ他2科3種 鳥類：15科20種 昆虫類：65科151種	(仮称) 龍宝寺地区は、寺の裏山に当たる部分で、比較的まとまりのある緑地となっています。平地部分は住宅地や神社仏閣が、尾根部分には学校が建設されており、複雑な地形をした斜面林が帯状に伸びています。面積が大きい割に種類はあまり多くありません。しかし、岡本地区、(仮称) 観音山地区、城廻地区、玉縄城址地区、(仮称) 植木地区と隣接し、かつその中央に位置していて、各緑地をつなぐ位置にあるので重要です。これらの緑地は一体として扱い、その連続性に注意して保全することが重要で、特に龍宝寺はその中心として、また、緑地同士をつなぐ回廊として保全していくと効果的です。
岡本地区 面積約5.19ha	45科80種	哺乳類：2科2種 鳥類：11科14種 昆虫類：35科80種	岡本地区及び(仮称) 観音山地区の平地部分はほとんど開発されてしまい、丘陵部分に島状にある緑地です。龍宝寺などの周辺緑地と一体として捉え、保全していくことが重要です。
(仮称) 観音山地区 面積約2.55ha	50科98種	哺乳類：アカネズミ他2科2種 鳥類：18科23種 昆虫類：48科96種	

地区名 面積	調査確認数		特記事項
	植物	動物	
(仮称) 岩瀬地区 面積約15.62ha	94科270種	哺乳類：モグラ、ノウサギ、タヌキ 他5科5種 鳥類：17科26種 爬虫類：3科4種 両生類：ニホンヒキガエル1科1種 昆虫類：85科226種 底生動物：9科10種	(仮称) 岩瀬地区は関東ローム層が堆積し、耕作に適しています。スギ、ヒノキ植林、竹林、赤松植林、クヌギ植林、オニシバリーコナラ群集などが生育し、一部畑作が行われています。樹林は今も管理がなされています。また、東側（横浜市側）および南側に緑地が続いているので、比較的多くの哺乳類が確認されて、市民からニホンザルを見たとの情報も寄せられています。岩瀬地区の周辺は、湧水が豊富で多数の井戸があります。
(仮称) 貞宗寺地区 面積約4.91ha	46科88種	哺乳類：モグラ、タヌキ他3科3種 鳥類：オオタカ、チョウゲンボウ、フクロウ他17科26種 昆虫類：44科84種	(仮称) 貞宗寺地区では、複数の猛禽類の飛翔が確認されました。あまり大きな緑地ではありませんが、鳥類にとって比較的良好な自然環境が維持されているものと考えられます。
(仮称) 天神山地区 面積約5.42ha	63科126種	哺乳類：モグラ他2科2種 鳥類：16科20種 爬虫類：トカゲ、カナヘビ2科2種 両生類：アマガエル1科1種 昆虫類：56科115種	(仮称) 天神山地区は、丘陵部分に島状にある緑地で、確認種はあまり多くありませんが、面積が比較的に大きく、市民からの情報では、渡り鳥の中継緑地として使われているとのことで、動物の移動経路として重要です。
六国見山森林公園 面積約9.74ha	65科145種	哺乳類：モグラ、ノウサギ、アカネズミ他4科4種 鳥類：15科22種 爬虫類：トカゲ、カナヘビ2科2種 昆虫類：51科131種	六国見山森林公園の北側は住宅地となっており、急な斜面には植木類が植栽されています。西側、南側の緑地は割合広く、緑地が連続していますので、中型哺乳類のノウサギが生息しています。公園西側、南側は今回の調査の対象外ですが、市民の情報では野草の種類は多いそうです。また、六国見山周辺は、秋期、タカの渡りの重要な休息所となっています。
(仮称) 上町屋地区 面積約1.66ha	60科125種	哺乳類：モグラ他2科2種 鳥類：13科19種 昆虫類：31科78種	(仮称) 上町屋地区は、住宅地に囲まれた小面積の斜面で、大部分が針葉樹の植林となっていて、生物相も単純です。しかし、この緑地も動物の移動には重要なので、緑地の質を高め、周辺緑地との連続性を高めるような整備を行うことが重要です。
昌清院地区 面積約1.02ha	70科136種	哺乳類：1科1種 鳥類：17科21種 爬虫類：トカゲ、カナヘビ2科2種 昆虫類：53科106種 魚類：1科1種 底生生物：7科7種	昌清院地区は社寺林で、ため池があり、鎌倉中央公園（台峯）と連続しています。そのため、面積は小さいですが、比較的多くの動物が確認されました。昌清院のため池には、枯木が倒れ込み、落ち葉が底に堆積し、水深が浅くなっています。

地区名 面積	調査確認数		特記事項
	植物	動物	
(仮称) 鎌倉中央公園(台峯) 面積約36.69ha	104科361種	哺乳類：ノウサギ、カヤネズミ、 タヌキ他6科7種 鳥類：フクロウ他21科38種 爬虫類：4科6種 両生類：4科6種 昆虫類：127科453種 魚類：モツゴ、ホトケドジョウ、 クロヨシノボリ他3科3種 底生生物：25科30種	鎌倉中央公園(台峯)は、全体的に確認個体数が多く、特に爬虫類、両生類は多く確認されました。鎌倉中央公園(台峯)は、他地区と比べて面積が大きく、そのうえ尾根と谷が織りなす変化に富んだ自然環境が形成され、湧水、ため池、湿地、素ぼりの水路など、多様な水系が存在し、立地に特有な植生も保たれていて、動物にとっては良好な生息環境が維持されていると言えます。
(仮称) 等覚寺地区 面積約2.73ha	76科157種	哺乳類：1科1種 鳥類：16科20種 爬虫類：トカゲ1科1種 昆虫類：46科98種	(仮称) 等覚寺地区、(仮称) 寺分一丁目地区は、丘陵部が島状に残された小面積の樹林地で、確認種も少ない状況です。住宅地を挟んで隣接する両者を一体として考え、効果的な保全を行う必要があります。
寺分一丁目地区 面積約2.45ha	60科119種	哺乳類：モグラ他2科2種 鳥類：14科17種 爬虫類：ヤモリ、トカゲ、 カナヘビ3科3種 昆虫類：43科93種	
(仮称) 手広地区 面積約15.4ha	75科179種	哺乳類：モグラ、アカネズミ、 タヌキ他5科5種 鳥類：フクロウ他22科36種 爬虫類：トカゲ、カナヘビ、 シマヘビ3科3種 両生類：3科5種 昆虫類：130科485種 魚類：3科24種 底生動物：21科24種	(仮称) 手広地区は企業の敷地内であり、一般の立ち入りが制限されているため、動物にとって静かで好適な環境が保たれています。また、藤沢市との境に位置し、藤沢市側に川名緑地、新林公園と緑地が広がっており、比較的良好な環境が維持されているものと思われます。藤沢市側の緑地と一体として扱い、一般の立ち入りを制限して保全することが、より効果的であると考えられます。
(仮称) 青蓮寺地区 面積約1.44ha	64科129種	哺乳類：モグラ、アカネズミ、 タヌキ他4科4種 鳥類：15科18種 爬虫類：トカゲ1科1種 昆虫類：59科110種	青蓮寺地区は、常緑広葉樹の自然林が生育する社寺林でいわゆる鎮守の森です。面積は小さいもののタヌキの糞が確認されるなど、比較的多様な動物が確認されました。青蓮寺地区は、(仮称) 手広・・ 笛田地区から連なる緑地と道路を隔てて隣接しており、さらに住宅地や学校が間にあるものの、(仮称) 手広地区と比較的近くに位置します。これらの緑地間を行き来できるので、タヌキのような中型哺乳類の生息が可能になっていると考えられます。
(仮称) 手広・ 笛田地区 面積約7.06ha	66科141種	哺乳類：モグラ、アカネズミ 他3科3種 鳥類：チョウゲンボウ 他19科28種 爬虫類：トカゲ1科1種 両生類：アマガエル1科1種 昆虫類：75科180種	(仮称) 手広・ 笛田地区の南西には畑が広がり、東側には住宅を挟んで、水田が広がっています。緑地全体としては、道路による分断はあるものの、鎌倉山へと連なり、帯状にかなりの広がりを持っています。この緑地の広がり、周辺にある耕作地との連続性を考慮に入れ保全していけば、生物相がより豊かになるものと考えられます。

地区名 面積	調査確認数		特記事項
	植物	動物	
(仮称) 常盤山地区 面積約21.60ha	80科206種	哺乳類：モグラ、アカネズミ 他3科3種 鳥類：15科22種 爬虫類：トカゲ、カナヘビ、 ジムグリ3科3種 昆虫類：68科185種	(仮称) 常盤山地区の植物は、関東地方を北限とするカラタチバナやカゴノキ等が確認され、温暖な気候下の植物相の特徴を表している一方で、関東地方を南限とするツクバトリカブトも多く確認されました。また、サルシナが確認されましたが、市民からの情報によると市域西部には大変少ないとのことです。さらに、昔は、フクロウの巣があったという市民情報も得られました。
(仮称) 広町地区 面積約59.05ha	101科404種	哺乳類：ノウサギ、カヤネズミ、 タヌキ他6科7種 鳥類：オオタカ、ノスリ、フクロウ 他21科38種 爬虫類：カナヘビ、アオダイショウ、 ヤマカガシ2科3種 両生類：4科5種 昆虫類：122科462種 魚類：ホトケドジョウ、 シマヨシノボリ2科2種 底生動物：29科38種	(仮称) 広町地区は、22地区で一番広い緑地で、緑地内に複数の谷戸が存在し、多様な水辺環境が形成されていました。そのため、多くの種が確認されました。しかし、一部の谷戸では乾燥化が進行しており、その対策が急がれます。(仮称) 広町地区は鎌倉市西部地域を代表する緑地の中心として保全していくことが重要です。
小動岬地区 面積約0.83ha	35科62種	哺乳類：イタチ他2科2種 鳥類：15科20種 昆虫類：35科74種	小動岬地区は22地区中唯一、海からの風を直接受ける地区で、海岸地区特有のイソギクハチジョウススキ群集やマサキートベラ群集が生育していました。他では生育しない海岸植物も多く確認されました。また、ユリカモメ、ウミネコなど、海岸に特有のカモメ類も確認されました。市民からは、アオバトが時々休憩しているとの情報が得られました。

図 5-1 鎌倉市自然環境調査対象地区位置図



(2) 野生動植物の保護

●天然記念物の樹木の保護

<文化財課>

健全な生態系の保持のため、市では「神奈川県文化財保護条例（昭和30年神奈川県条例第13号）」及び「鎌倉市文化財保護条例（昭和35年条例第7号）」等によって天然記念物の樹木等を保護しています。

神奈川県指定の天然記念物としては、鶴岡八幡宮の大イチョウがあります。鎌倉市指定のものとしては、鶴岡八幡宮や建長寺のビャクシンなど33件があります。

●傷病野生動物の保護

<環境保全推進課>

傷病野生鳥獣の保護については、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（平成14年法第88号）」に基づき神奈川県が策定する鳥獣保護事業計画の一つの施策事業として位置づけられています。

市では、平成4年度から傷病野生鳥獣の保護を行っており、治療等を必要とする野生鳥

獣を横浜市立金沢動物園内にある動物病院に搬送しています。

平成19年度の実績は表5-2、表5-3のとおりです。

表 5-2 傷病野生鳥獣保護通報実績

	種類	通 報 内 容 及 び 件 数				
		病気	傷害	幼鳥獣	その他	合計
鳥 類	16	2	14	14	13	43
獣 類	1	24	3	—	4	31
その他	—	—	—	—	—	—
合 計	17	26	17	14	17	74

表 5-3 傷病野生鳥獣保護処理実績

	種類	処 理 内 容 及 び 個 体 数					
		搬送	放野	死亡	指導	その他	合計
鳥 類	16	26	3	3	9	5	46
獣 類	1	18	1	1	4	7	31
その他	—	—	—	—	—	—	—
合 計	17	44	4	4	13	12	77

●鎌倉メダカ

＜環境政策課＞

環境省の絶滅危惧種に指定されたメダカは、市内では1985年頃に滑川の源流近くで生息していることが観察されて以来、確認できない状況でした。佐助在住の方が1960年代後半頃、滑川支流近くの水田で採取した「鎌倉メダカ」を大切に育てていることがわかりました。

市ではこの鎌倉メダカ55匹を平成11年8月に譲り受け、市役所敷地内の池で繁殖させ、児童の手により扇川に放流するほか、平成19年度までに、市内の小中学校等に合計950匹を配布し、育てています。また、鎌倉自主探鳥会グループでは、飼育環境等の条件を満たせば、希望する市民の方にも配布し、里親になってもらっています。

メダカは河川の水系ごとに「しりびれ」の軟条数の遺伝的な差異が見られます。滑川水系のメダカの軟条数は17.30本で、他市の水系に棲息するメダカとは軟条数が異なるため、「鎌倉メダカ」（写真5-1）と呼ばれています。

写真 5-1 鎌倉メダカ



（３） 野生動植物の生息・生育に重要な場所（ビオトープ）の保全

●ビオトープ

＜市民・事業者＞＜環境政策課＞

ビオトープとは、ドイツ語で、野生の生き物たちが互いに関係を持って暮らしていける空間を指します。本来は幅広い自然生態系のことを指しますが、ここでは人の手で作り出されたものについて記します。

市では、環境教育を目的に平成13年市役所に隣接する御成小学校の児童とともに市庁舎前の池をビオトープとして整備しました。

現在、市立第一小学校・西鎌倉小学校・山崎小学校・今泉小学校・鎌倉女子大大船キャンパス・鎌倉女学院・県立鎌倉高校の7校においてビオトープが完成しています。



写真 5-2 鎌倉市立山崎小学校



写真 5-3 鎌倉市役所

（４） 生物の多様性を高めるエコアップ

●エコアップ活動

＜市民・事業者＞

生態系を健全に保持するには、第4章で述べられているような都市公園等の整備をはじめとした緑地の確保・保全が大切な条件となってきます。また、下水道の普及による河川の浄化も不可欠なものです。さらに、開発や災害等で失われた自然環境を復元するとともに、生態学的な見地に基づいて、限られた緑地面積の中により多くの野生生物が生息できるよう、生息環境の向上と多様化を図る「エコアップ」にも取り組む必要があります。市内では様々な市民団体が、公園や河川などにおいて野生生物の生息環境を整えるなどの活動を行っています。

表 5-4 市内におけるエコアップの活動実例

場 所	目 的 と 作 業 内 容 の 例
源氏山公園	公園のオーバーユースによる野鳥生息地の荒廃を防ぎ、貴重な植物の保護を図る ・ 野鳥誘致施設の水場の清掃・管理 ・ 林内の下草刈りの制限等により、生息環境の多様化を図ると共に、アオゲラ・フクロウなどの営巣している木の保全など
佐助稲荷	台風による崖崩れ後の谷戸環境の復元と復活したゲンジボタルの生息環境の保護 ・ 水源環境の保全と流れの維持管理 ・ 水路周辺の草を間引き、開水面を確保することにより、トンボ類の産卵場所を確保
鎌倉中央公園	公園の整備に伴う生息環境の変化の影響を受けやすい動植物をできるだけ保全する ・ カエル類の産卵用に湿地を整備 ・ 池や湿地の水質・水位の管理 ・ トンボ類の産卵場所を確保するために草を間引く ・ 公園内で採種した種子から育てた野草の苗を植え、保護増殖させる ・ 間伐や下草刈りによる雑木林の保全 ・ 各調整池や湿性花園の取水口の清掃 ・ 特定外来種のブルーギル等の駆除
佐 助 川	二面護岸された川の水生生物の生息環境の多様化を図り、ヨシノボリの遡上数とモクズガニの生息数を増やす ・ 重量ブロックを利用し、生息環境を創出した区域の維持管理作業 ・ 水質と水生生物の調査 ・ 草刈り・ゴミの清掃
御 谷 川	多自然型河川改良整備が実施された川の生息環境の維持管理、ゲンジボタル・モノサシトンボ・ツチガエル等の保護増殖 ・ 水質と水生生物の調査 ・ 草刈り ・ ゴミの清掃
逆 川	ホタルの生息環境の維持管理と保護増殖 ・ 水質調査 ・ カワニナの放流、セリを植える ・ 草刈り

2 自然とのふれあい（目標の項目⑪）

目標：海、山、川、池などで自然にふれあい、自然から学び癒される機会を増やします。

◆目標達成するための指標

都市公園等の施設緑地の面積	平成27年度（2015年度）に183ha（再掲）
一人当たり都市公園等の施設緑地の面積	平成27年度（2015年度）に12㎡/人（再掲）
生き物観察広場の数（小・中学校）	平成27年度（2015年度）に10箇所追加

自然には、生態系の保持、環境の保全や資源の提供など、さまざまな働きがあります。その一つに私たちに潤いや安らぎを与えてくれるという働きがあります。私たちは自然と触れ合うことにより、自然からさまざまな知見を得るとともに自然の大切さを学ぶことができます。

また、市民団体等によるボランティア活動が環境保全や環境教育を進める上で大きな力となっています。

平成19年度末、都市公園等の施設緑地の面積は92.68ha、一人当たりの都市公園等の施設緑地の面積は5.36㎡/人です。生き物観察広場の数（小・中学校）は7箇所です。

（1）ふれあいの場の確保

●鎌倉中央公園

＜市民・事業者＞＜公園海浜課＞

自然とのふれあいや農作業体験などができるようにしました。平成9年6月に修景池周辺の約8.5ha、平成16年4月には更に約15.2haが開園しました。園内には庭園植物園や食材園、子供の森、田畑や湿地など、自然を生かし緑と水が中心になった施設を配置しています。

公園化される以前からこの場所では市民団体が独自に環境保全活動を行っていましたが、開園後も引き続き、自然観察会、炭焼き、農芸体験などを行い、公園の環境保全に寄与しています。

①市民による農業体験

市では(財)鎌倉市公園協会に委託して、自然や農業に対する理解や関心を深めるため、市民を対象に農業体験を実施しました。

田んぼ体験（5月3日から12月9日）は延べ254人、畑体験（4月29日から1月6日）は延べ99人の参加者がありました。

写真 5-4 市民による農業体験



②教室・講座等の開催

(財)鎌倉市公園協会主催で園芸教室や、エコパークを開催しました。エコパークは自然観察を通じて自然に対する関心を深めてもらうものです。

表 5-5 鎌倉中央公園の教室・講座の開催

	開催日	テーマ	対象と参加者数
園芸教室	4月23日～2月29日の6回	松の手入れ、ウメの剪定など	延べ98人
エコパーク	4月18日～11月30日	ハーブ請負人、花はな育て隊など	延べ545人
こどもエコパーク	4月28日～3月15日の9回	春の公園で遊ぼう、森を育てるお手伝いをしようなど	小学生317人

●鎌倉広町緑地

<公園海浜課>

広町地区を主として動植物の生息地又は生育地である樹林地等の保護を目的とする都市公園の一つである「都市林」として保全・活用を図ることになりました。基本コンセプトを、「古都の自然ふれあい都市林～広町の森」として、古都鎌倉の緑を継承し、人と自然が織り成す、多様で良好な都市林の保全創出を目指します。

●市民農園の整備

<産業振興課>

市では、市民が野菜や草花の栽培を通して自然とふれあい、農業への親しみと理解を深めるため、「鎌倉市市民農園」を開設しています。公開抽選により、1世帯当たり1区画(概ね15㎡)の農園を23ヶ月間利用することができます。なお、市民農園の区画数及び面積は、表5-6のとおりです。

表 5-6 市民農園の区画数及び面積

	区画数	面積(㎡)
大船地域	140	3,599.45
合 計	140	3,599.45

●ハイキングコース

<観光課>

市内には表5-7のとおり、自然とのふれあいが楽しめる3つのハイキングコースを紹介し、多くの人に利用されています。

表 5-7 ハイキングコース

No	コース名	経 路	距離 (k m)
1	天園ハイキングコース	建長寺—天園—瑞泉寺	約5.5
2	葛原岡・大仏ハイキングコース	浄智寺—葛原岡神社—高德院(大仏)	約3.0
3	祇園山ハイキングコース	高時腹切りやぐら—祇園山—八雲神社	約1.5

(2) 海、山、川、池などで自然とふれあうスポーツ・レクリエーションなどの機会の充実

●自然の中で行うスポーツ・観察会等の振興

<スポーツ課>

市民の皆さんがともに自然とふれあう機会を楽しむものとして、表5-8のような催しを実施されています。

表 5-8 自然の中で行うスポーツ・観察会等

	実施日 (参加人数)	実施主体
歩け鎌倉 2007	平成19年5月27日 (約280人)	市教育委員会
ウォーキング、ノルディックウォーキング	平成19年4月～20年3月 (約100人)	市教育委員会
マリンスポーツ体験教室	平成19年7月 (70人)	市教育委員会
野外活動体験	平成19年12月1日 (30人)	市教育委員会

●環境にやさしい観光の推進

<観光課>

良好な環境を保全するため、鎌倉へ訪れる観光客に対し、公共交通機関の利用と「歩く観光」をアピールし、環境にやさしい観光を推進しています。なかでも、歩いてまわりたくなるような道づくりを推進するため、自然、歴史、文化等のテーマ性をもったモデルコースとして11コースの「かまぐらの道」を選定し、市民・観光客へのPRに努めています。

また、「かまぐらの道」のリーフレットをはじめ、観光地図「鎌倉」や毎月発行する「かまぐら四季のみどころ」、観光課ホームページにおいても、環境保全を呼びかけています。

●わくわく花フェスタ・鎌倉中央公園フェスティバルの開催

<市民・事業者><公園海浜課>

(財)鎌倉市公園協会主催により、平成19年4月29日に鎌倉中央公園において、市民に対する緑化意識の高揚と緑化の普及・啓発を図るため、花と緑をテーマとした「わくわく花フェスタ」を開催し、参加者は4,096人でした。

また、平成19年7月20日～22日の3日間、午前6時から午前10時まで「おはよう花市」を開催し、参加者は490人でした。

さらに、平成19年10月14日(日)には、防災公園として位置付けされている鎌倉中央公園で、

救命講習など市民に対する防災意識の高揚と緑に関する各種事業のPRを行う「鎌倉中央公園フェスティバル」を開催し、参加者は1,814人でした。

なお、参加・協力団体は、近隣町内会・自治会、大船消防署、消防分団、参加協力団体、社会福祉団体などでした。

(3) 自然とふれあうための指導者など人材の養成及び確保

●緑の学校の開講

<みどり課>

緑豊かなまちづくりをめざし、樹木に親しみ、緑の大切さなどの普及を図るために昭和58年度から、毎年度「緑の学校」を開催しています。平成19年度は4月25日から10月31日まで表5-9のとおり9回の講座を開講し、延べ185人の受講者がありました。

表 5-9 平成19年度緑の学校プログラム

開催日	講座名	講師	場所
平成19年4月25日	緑の概要	飯村武	鎌倉中央公園管理事務所
平成19年5月9日	自然観察会	久保廣晃 杉山順子 田中美恵子	佐助稲荷・源氏山公園・寿福寺
平成19年5月23日	自然と親しむ	杉山順子	鎌倉中央公園
平成19年6月13日	野鳥観察	足立直義 後藤理恵子 高田宏造	散在ガ池森林公園
平成19年7月4日	病虫害	飯村武	鎌倉中央公園管理事務所
平成19年7月11日	緑の現状	景観部次長兼公園海浜課長 土屋志郎	鎌倉中央公園管理事務所
平成19年8月29日	庭木の手入れ	平野内定一	鎌倉中央公園管理事務所
平成19年9月5日※	自然観察会	久保廣晃 杉山順子 田中美恵子	十二所・金沢方面・朝夷奈切通
平成19年10月10日	自然観察会	久保廣晃 杉山順子 田中美恵子	鎌倉霊園・ハイキングコース・横浜自然観察の森
平成19年10月31日	まとめ	飯村武	鎌倉中央公園管理事務所

※ 予定日、予備日ともに天候不良であったため中止としました。

●緑の学校等を通じた指導者の育成

<みどり課>

緑の学校の修了者等を対象に緑化講習会を開催し、地域住民の自主的な緑化活動の中心となる緑化指導者の育成を図っています。

昭和60年度からの延べ参加者は892人になります。

●緑のレンジャーの育成

<みどり課>

市では、公園緑地等の樹林地を管理するボランティア等の人材養成と確保を目的として、緑のレンジャー（小学校４・５年生を対象としたジュニアレンジャーと大人を対象としたシニアレンジャー）を育成しています。

ジュニアレンジャーは、毎月第２土曜日を活動日として２年間にわたり指導員の指導による自然観察や体験作業などを行うとともに、公園緑地の施設点検、清掃活動及び一般利用者に対する啓発活動を行っています。平成19年度は「シニアレンジャーと公園管理をしよう」などをテーマに、11回の活動が実施されました。

シニアレンジャーは、公園緑地等の保全管理の手法を学ぶための学習会や、維持・管理に必要な技術の習得を目指し、下草刈り等の管理作業を行っています。平成19年度は鎌倉中央公園での管理作業をはじめ、10回の活動が実施されました。

また、シニアレンジャー修了者が源氏山公園で毎月第２火曜日・第３土曜日に樹林管理等のボランティア活動を行っています。平成19年度は、延べ373人の参加がありました。



写真 5-5 ヒノキの間伐の体験作業をする
ジュニアレンジャー